

秋のリズムを描こう/アクションペインティング

教科・場面

造形（美術）

授業・実践のねらい

- ★様々な制作活動に応じた道具の使い方や身体の動かし方を工夫する
- ★音や感触に注目したり、色・形・模様や他の生徒が制作する様子を見たりして、気持ちを表出する

対象の児童・生徒

- ・高等部 A2グループ
- ・自分で姿勢を保持したり道具を持って動かしたりすることが難しい生徒が多い。
- ・同じ姿勢や楽な姿勢を続けると、覚醒が下がりやすい。
- ・注意集中の持続力、注視し続けることが難しい生徒も多い
- ・身体状況はみんな異なる。

教材・教具

- ・大きい段ボール・荷づくりベルト
- ・ゴム紐・ボール・大きいビー玉
- ・グローブ・スポンジ・園芸ネット
- ・FB・鈴・どっちもクリップ



工夫したところ

生徒自身の粗大的な動作によって、表現することを楽しみながら描くことができる。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

★NHK for school「ノージーのひらめき工房」「キミなら何作る？」を使用した実践（NHK 研究委嘱研究授業）

【フジシ版パッションテクニック】
→FB や介助立位など、身体の動きを引き出しやすい姿勢をとる

- ① ビーだまローリング
 - ・自分の身体の動きで転がし絵を描く
- ② てのひらムービング
 - ・ボクシンググローブに絵の具をつけ、腕の動きやパンチで描く
- ③ わゴムスブラッシュ
 - ・スパッタリングが難しい児童生徒でも自分の身体の動きで描くことができる



授業・実践を通じた児童生徒の変容

- 両手で箱を持って揺らしたり指で輪ゴムをつまんだりするなど、細かい手指の操作が難しくても、教材の工夫によって番組内のキャラクターと同じ制作をすることができ、全身を使って表現することを楽しみながら制作できた。因果関係が分かりやすく、引っ張ろうと自ら手を伸ばしたり、手放すことで大きく揺れたりすることを楽しんで、進んで取り組もうとする生徒の姿が見られた。